

令和4年度 学校関係者評価

学校名 北海道立青嶺高等学校

組織名 学校運営協議会

1 本年度の重点目標

- 基本的な学習姿勢を身に付け、目標を持って主体的に学力を積み上げる生徒
- 自分を尊重し思いやりの心を持ち、義務と責任を重んじて的確に判断し行動できる生徒
- 自己理解を深め、自らの個性と適性に基づいて進路目標を確立し、自己実現を目指す生徒

重点目標の適切さ
 ・学校の目指す生徒像が明確に目標となっており、適切であると思います。
 ・言葉は頭で理解できるというレベルではなく、深く共感できることが大切です。借り物ではなく、実際にやっていることを自分たちにとって親しみある言葉で示すことが重要ではないでしょうか。私たちはリーディングブックを学ばせています。参考まで
 ・本校の重点目標は、生徒像を目指すものとして掲げられているもので単位制導入以降、学校の評価は高くなってきているものと考えます。
 ・適切に設定されています。

評価者
 次原勝秀 斎藤正史 中島英治
 藤江紀彦 田村忠士 田村 薫
 田淵純勝 福井 誠 工藤保秋
 伊藤真美

学校が行った自己評価の結果の内容が適切かどうか評価を行う。
 A(適切な評価である)
 B(ほぼ適切な評価である)
 C(やや不適切な評価である)
 D(不適切な評価である)

2 自己評価結果

大項目	中項目	評価項目・指標等	達成状況	改善の方策	自己評価の結果の適切さ				今後の改善の方策の適切さ			
					A	B	C	D	A	B	C	D
学習指導	教育課程	生徒の実態に即した教育課程編成	B	今年度の1年生より新学習指導要領に切り替わった。次年度以降年度進行で進んでいくため、生徒の様子に注目していきたい。	6	1	0	0	6	2	0	0
		基礎・基本を大切にしている指導	C	学期の始めや試験の前に「教務たより」を発行し家庭学習が定着するように啓発した。また、朝読書・朝学習の継続により、学習習慣の定着を図り、家庭学習の定着へ働きかけている。	6	2	0	0	6	1	1	0
	学力向上	家庭学習の促進など学習習慣の定着を図る取組の促進	D	基礎基本を大切にしている指導については先生方に浸透しているため、次年度も継続していく。	2	4	2	0	3	3	2	0
		朝読書や朝学習など朝の時間の有効活用	A		7	1	0	0	7	0	1	0
	授業改善	授業規律の確立	A	概ね整然と授業が行われている。授業の中で生徒自身が主体的に学ぶ意識を高める授業改善をしている科目が増えてきている。さらなる興味・関心を持つ教材・授業展開の工夫が必要である。	7	1	0	0	7	1	0	0
		言語活動の充実や問題解決的な学習	B	「じもと学」において、登壇者、議案、商工会議所、地元企業等と連携を図りながら進めてきた。次年度はより連携を密にして進めていきたい。	5	3	0	0	5	3	0	0
	観点別評価など評価の工夫	C	1年生から一人1台端末を持つようになり、授業やホームルームで活用されている。次年度以降も積極的な活用が求められるため、教員個々の研修が必要である。	5	3	0	0	5	3	0	0	
	学ぶ意欲を喚起する学習指導の工夫	C		5	2	1	0	4	3	1	0	
	ICTの活用など学習指導の工夫	A		7	1	0	0	8	0	0	0	
評価者の意見等	「家庭学習の促進など学習習慣の定着を図る取組」等の取組がその一つとなることを期待します。学ぶ意欲の喚起は家庭学習の促進、学習習慣の定着に大きく関連していると感じます。学習指導の工夫を期待します。 家庭における学習等の取組については、社会環境の変化にもよって難しく、睡眠時間にも影響が出ているのではないのでしょうか。また、ICTの活用については、かなりの定着が図れているようですが、今後の先生方のレベルアップが必要と考えます。 「単位制」の導入や「新学習指導要領」への切り替わり等項目で大変だと思います。頑張ってください。「基礎・基本の指導」も大切ですが、「高等学校」ですので少しづつ「レベルアップ」を、「朝読書」→「タブレット端末」の導入で、「学習履歴」が進むのを目指して、短い期間でも継続して頂きたい。 受け手の姿勢から主体的に学ぶ姿勢への転換が望まれます。											
	生徒指導	規範意識	規範意識が涵養される生徒指導の推進	B	休み時間でのタブレットの使用について教務部と連携してルール作りを進めていく必要がある。スマホについても今までの預かり指導から自己管理に移したが、大きなトラブルもなく次年度も継続していく	5	3	0	0	5	2	1
自主的主体的活動		スマートフォンの活用	C		5	2	1	0	5	2	1	0
		活発な生徒会活動	A	今年度は昨年度に比べると学校行事やボランティア活動に積極的な生徒が増えてきて、生き生きと活動している。次年度も継続していきたい。生徒数の割に部活動の数が多く、部活動の精選に課題がある。現状を十分に把握し、改善を図る必要がある。	8	0	0	0	8	0	0	0
		地域行事への参加やボランティア活動の推進	A		8	0	0	0	8	0	0	0
	部活動の充実・活性化	C		3	5	0	0	5	2	1	0	
	いじめ	いじめ防止に関する適切な啓発及び対策	C	日頃からの校内連携により生徒観察を重視している。さらにはいじめ対策委員会を必要に応じて開催し、情報共有を図る必要がある。	4	3	1	0	6	1	1	0
評価者の意見等	市内唯一の高等学校として、地域との積極的な連携や地域への情報発信に期待します。 ボランティアに取り組む姿は地域として大変うれしく思っており、継続を期待する。 ペンタゴン大作戦への参加を通じて子ども達のいじめ防止の心が高まっていると感じます。 スマホの持ち帰り管理から、個人管理への移行は、結果としてA-Cの評価となっており管理上の難しさが見えます。いじめ対策は保護者向けチラシによる啓発等、取組に対する理解を得ることも大切であると考えます(すでに実施済み)。 「部活動」に関しては、各指導員(小・中・高)、各自治体で共通の問題と認識しています。早急な対応(種目の精査、協会の合同等)が必要でしょう。「いじめ問題」校内連携にも関係すると思います。2番煎じになりますが、「ペンタゴン大作戦」を毎月1回開催し取り組む。 スマホの自己管理は自ら考え、自ら行動することができる生徒の育成の第一歩と考える。 部活動で学校でのチームが作れないのは残念です。なんとか学校で1チームを目標に...											
	進路指導	進路実現	上位層の学力伸長に係る取組の推進	C	講習や進路課題の添削等により継続指導を行う。また、授業を中心とした学習環境の向上を図る。	4	3	1	0	5	2	1
キャリア教育の推進と進路情報提供		保護者に対する十分な進路情報の提供	C	ホームページや配信メールを活用して、スピード感を持って更新に努める。	3	5	0	0	4	3	1	0
		生徒との進路にかかる個別相談の充実	A	教職員の評価も高く、継続して実施する。	7	1	0	0	8	0	0	0
		系統的進路指導の推進	C	進路指導部と年次主任の連携を強化し、「総合的な探究の時間」との関連を図る。	4	3	1	0	5	2	1	0
評価者の意見等	コロナ禍も過ぎ、学校への出入りも可能となっており、学校からの一方的な情報発信から、生徒、保護者、担任等直接話をする形へ戻していくことも重要かと思えます。 進路指導は、就職・進学等にかかわらず入学生時点から早々に進路の意識付けが必要で、只、自分の進路を決めることへのプレッシャーを掛けることも生まれることから、何を指すのかなど情報提供を含めて進路指導に取り組まれることを望みます。 市内唯一の高等学校として多様な進路選択に対応できるよう期待している。											
	健康安全指導	心身の健康	生徒全員の個別面談の実施と教育相談活動の充実	A	「ハイパー-Q-U」の検査結果を分析し、教育相談へと結びつけるとともに、引き続きスクールカウンセラーの活用を図る。	7	1	0	0	7	1	0
安全指導		スクールカウンセラーの活用による教育相談機能の強化・充実	A		7	1	0	0	7	1	0	0
		特別支援教育への理解の促進	C	教職員で情報の共有並びに研修の充実を図る。	3	4	0	0	3	4	0	0
		美化活動	校舎内外の清掃・環境整備	C	生徒への美化活動の意識付けを図る。	5	3	0	0	5	3	0
	防災	生徒の主体的行動を高める防災意識の涵養	B	異校種の取組を参考によりよい方策のため改善を図る。	5	3	0	0	5	3	0	0
評価者の意見等	特別な支援が必要な生徒は年々増加している傾向にあり、教職員の研修や情報の共有など、積極的に取り組む必要を感じています。 ・日本海溝、千島海溝による巨大地震・津波の想定が発表になり、登壇においても、太平洋沿岸に面するだけに、先づから通学する生徒達の防災意識は、個人個人の命を守ることにほかに、いろいろな局面を想定した避難訓練等が必要と考えます。 ・「心身の健康」の「特別支援教育」が理解できません。 ・校舎内外が大変きれいである。											
	信頼される学校づくり	地域連携	PTA便り・各種通信・HP・ラインスクールなど発信の強化	A	今年度も市内の中学校を訪問したことで中学校との距離を大きく近づけることができた。コロナ禍もあり部活動の交流を図ることができなかったが、リモートによる授業見学を通して交流を深めることができた。次年度も継続していきたい。	7	1	0	0	7	1	0
とPTA活動の活性化		地元中学校との情報交換・部活動などの交流	C	コロナの影響もあり、今年度は地域との距離を近づけ、本校を初めてもらうこともあった。新たな科目「じもと学」を通じて地域で生徒を育てる学校づくりを進める。	4	4	0	0	5	3	0	0
		コロナ禍で活動が難しい中「PTAだより」の作成など活動の継続	B	コロナの影響により、参加頂けなかった行事もあり、次年度は例年通り協力関係を築き	5	3	0	0	5	3	0	0
評価者の意見等	市内唯一の高等学校として、中学校はもとより、地域と連携していくことは重要であり、積極的な開かれた学校づくりに取り組んで頂きたい。 ・評価は昨年度BDDからACBに大幅に上がったとあり、登壇に入学してもうための手段として、市内の中学校との交流は大きなものがあるかと考える。さらに「じもと学」の導入にもう企業への意図付けには高いものがあるかと考える。											
	組織運営	教職員の連携強化	教職員の学校経営参画意識を持った主体的取組の前進	D	コロナ禍もあり、ICTを活用した授業など新たなことへチャレンジする雰囲気が出てきている。また、新たな科目「じもと学」の準備により、意図的に活動している教員が増えている。よりいっそうの声をかけを図る。	6	0	2	0	4	4	0
教職員同士の意思の疎通と組織的運営		教職員同士の意思の疎通と組織的運営	D	書籍による適切な引き継ぎが重要であるため、各担当者に徹底している。また、コミュニケーション不足によって、情報の共有化がなされない場面が多く、次年度に向けて、情報発信と確認作業の徹底を図る。	6	0	2	0	4	3	1	0
		的確な反省引き継ぎなど事業・行事実施後の成果と課題の把握	D		6	0	2	0	4	4	0	0
		教育課題や教育情報の共有化と共通認識の促進	D		6	0	2	0	4	3	1	0
評価者の意見等	「単位制」への移行やコロナ禍の影響もあり、連携も取りづらくなる状況下と思われるが、情報や課題を共有することで学校課題の解決につながるものと期待します。 特に学年生徒の低評価が気になります。教職員間の意思の疎通が生徒に不安や不信を与えているのではないのでしょうか。 ・じもと学と地域の協力体制強化されているのに、学校の連携評価が低く感じます。 ・教職員の組織運営は、評価としては「D」ランクで自身には厳しいものがあるように思う。新たな「じもと学」の導入をおとて組織運営につなげたいと考えます。 ・「教職員の連携強化」～毎年「教職員同士の連携・情報共有」が「D」判定が多い感じがします。より一層の取組を。 ・「じもと学」は教職員とチーム力が重要な科目。2年目に期待したい。											
	資質向上	研修等の充実	校外での研修への参加と積極的な教科内研修の実施	D	積極的な研修を受ける教員が増えている。ただ研修で得た情報を全教員で共有できていない。次年度は情報の共有方法を改善する。	6	0	2	0	5	3	0
働き方改革		働き方改革に係る教職員の意識改革や学校運営の工夫改善	D	働き方改革については、評価のより具体的な対策となっていないように考えられる。よって、本校にとってのよいにすれば良いか先生方の意見を蓄えて実践できるように期待するものである。	6	0	2	0	5	3	0	0
評価者の意見等	コロナ禍の中で校内外の研修でできなかったと思いますが、今年は積極的な実施に期待します。働き方改革は多くの課題があると思いますが、一つ一つ課題を整理しながら取組を推進して頂きたい。 働き方改革については、評価のより具体的な対策となっていないように考えられる。よって、本校にとってのよいにすれば良いか先生方の意見を蓄えて実践できるように期待するものである。											
	新型コロナウイルス感染症対策	生徒に対し適切な指導	A	養護教諭を中心に換気の仕方や密を回避する行動の重要性が保健だよりを通して、生徒に周知している。次年度は新型コロナウイルス感染症の扱いが大きく変わらうとしているため、情報を精査し、対応の検討を速やかに行う。	8	0	0	0	7	1	0	0
消毒・換気作業などの対策		A		8	0	0	0	7	1	0	0	
職員間での情報共有		A		8	0	0	0	7	1	0	0	
評価者の意見等	・長年にわたる新型コロナウイルスへの対応お疲れ様でした。このコロナ対応の経験を活かして今後の危機管理に生かして頂きたいと思えます。 ・新型コロナウイルス感染症対策はこの間、十分な対策の上、最小限の感染のみで拡大もなかったと考える。昨年の組織管内の感染拡大は特に、市内の小中学校ではその対策に苦労されたようですが、互いに情報共有が大事と考える。											

※「達成状況」は教師用アンケート結果による自己評価になります。